

小学校教諭をめざす学生のための英文法指導

—複言語主義に基づく絵本を活用して—

木戸 美幸

I. はじめに

2019年4月18日に文部科学省が全国の小学校6年生（約107万6千人）と中学校3年生（約104万5千人）を対象として実施した全国学力・学習状況調査では、中学校3年生に対して、英語の「聞く・話す・読む・書く」4技能を試す初めての学力テストが課された。問題作成にあたって重視されたのは、自分の考えを書いたり、会話の流れに沿って話したり、といった、生徒が苦手だとされる英語による「発信力」を試すことであったという¹⁾。

「聞く・読む・書く」の3技能を試す問題の正答率は56.5%²⁾だが、文法の基本的な誤りがめだった。例えば「書く」では、女性の居住地を訪ねた設問に対する正答率は、わずか33.7%である。多かった誤答は、*She live in Rome.*で、これは中学校1年生レベルの動詞の語尾活用が習得されていない現状を示しており、生徒の文法知識不足の象徴として、テスト実施直後のメディアでも広く取り上げられていた。因みに、小学校英語教科化に早くから強い懸念を表明し続けている大津が、中学校1年生の英語学習者にとっての「三人称・単数・現在」の動詞活用の難しさを、「中1秋の壁」の典型例として挙げている³⁾ように、この文法的誤りに関しては、日本語母語話者の多くにとって正しく運用することが大変難しいものの一例である。

「話す」を試す問題の正答率は30.8%とさらに低く、自分で英文を組み立てて表現する力の弱さが鮮明になったようである。7月末に公表されたこの全国学力テストの最終報告によれば、4技能別の正答率は、聞く68.3%、読む56.2%、書く46.4%、話す30.8%、であり、特に「話す」力の低さが際立つ結果となった。

文法・読解中心の英語教育が上述の学力テスト結果に反映されているとの推測は、ここ30年以上にわたって進められてきた日本の英語教育改革をふまえていない。本稿は、1) コミュニケーション重視の英語教育への改革の歩みをまとめて示し、2) コミュニケーション力を含む言語活動すべての基幹となる文法習得の重要性を示した上で、3) 教員養成課程で小学校教諭1種免許取得をめざす京都光華女子大学こども教育学科の学生に、2年次の基礎・教養科目「英語S3a」（2019年度前期開講15回）で、どの文法事項を選び、それをどのように教えたかを記し、4) 毎授業終了後に実施したreflection paperの分析結果をふまえながら、複言語主義に基づく効果的文法指導法についての考察を行うことを目的とする。

II. コミュニケーション重視型英語教育改革

文法・読解中心からコミュニケーション重視への転換

過去30数年に及ぶ英語教育改革の流れをまとめた以下の表⁴⁾が明らかにしているのは、文部科学省が、英語教育の方針を文法・読解中心からコミュニケーション重視へと転換し、その改革に実効性を持たせるべく、矢継ぎ早に教育政策を打ち出してきた軌跡である。

表 1. 過去 30 数年の英語教育改革の流れ

年度	政策と内容
1986	中曽根内閣の臨時教育審議会「第二次答申」において、文法・読解中心からコミュニケーション重視への転換要望。
1987	臨教審「第四次（最終）答申」において、広くコミュニケーションを図るための国際通用語習得を重視し、中学校・高等学校・大学を通じた英語教育の内容や方法の見直しを提言。
1989	中学校・高等学校学習指導要領が告示され（1993 年度施行）、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」（中学校）を明記、新教科「オーラルコミュニケーション」（高等学校）を新設。
1998	小学校学習指導要領が告示され（2002 年度施行）、総合的な学習の時間で「外国語会話等」が実施可能。
2000	経済団体連合会「グローバル時代の人材育成について」で、英会話重視、小学校からの英語教育、大学入試センター試験でリスニングテスト実施などに言及。
2001	「英語指導方法等改善の推進に関する懇談会」の報告書において、小学校での「教科としての英語教育の可能性等も含め、今後も積極的に検討を進める必要」明記。
2003	文部科学省「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」において、中学校卒業者は英検 3 級程度、高等学校卒業者は英検準 2 級～2 級程度、英語教員は英検準 1 級 /TOEFL (PBT) 550 点 /TOEIC730 点程度以上、と到達水準を外部検定試験による数値で初めて設定。
2008	小・中学校学習指導要領が告示され（小学校 2011 年度、中学校 2012 年度施行）、小学校外国語（英語）活動が必修化、中学校で 4 技能による総合的コミュニケーション能力の育成求める。
2009	高等学校学習指導要領が告示され（2013 年度施行）、コミュニケーション重視を一段と鮮明化、「授業は英語で行うことを基本とする」と規定。
2013	日本経済再生本部産業競争力会議が「成長戦略」発表。小学校英語教育の早期化・教科化、中学校における英語による英語授業実施の検討開始。
2017	小学校学習指導要領が告示され（2020 年度施行）、5・6 年生で英語の教科化。
2018	中学校での授業も原則英語による指導を段階的实施。

1986 年の臨時教育審議会第二次答申で、中学校・高等学校の英語教育に関して、文法知識の習得と読解力の養成に重点が置かれ過ぎている点が指摘されて以降、上記表が示すように、英語教育はコミュニケーション重視へと改革路線を一直線に走ってきた。その結果、現在はずでに「読む・書く」よりも「聞く・話す」英語に比重が置かれている。最初に述べた英語の「聞く・話す・読む・書く」4 技能を試す初めての学力テストを受験した中学校 3 年生は、言うまでもなく小学校 5 年生から必修化された外国語（英語）活動を受けてきた学年である。誤答の原因については詳細な検証を待たねばならないが、いずれにしても、今回のテスト結果に関する 4 技能別の正答率を見ると、コミュニケーション重視の教育が、期待されたほどの結果を出していないことを示しているのではないかと。

他方、「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」で数値化し提示された生徒・教員の英語力について、中学校 3 年で英検 3 級相当の英語力をもつ生徒数は目標達成率 50% に対し、2015 年度 36.6%⁵⁾、2016 年度 36.1%⁶⁾、2017 年度 40.7%⁷⁾、2018 年度 42.6%⁸⁾ という調査結果をふまえ、文部科学省はずでに再三、目標達成年度を先延ばしにしているのが現状だ。教員に関しても、国の掲げる目標達成率が、公立高等学校教員 75% に対して現実 55.4%、公立中学校教員 50% に対して現実 28.8% という調査結果がある上、中高生の「書く・話す」を苦手とする傾向の一因として、一部教員の英語力や指導力が考えられる、との文部科学省の見解も添えられている⁹⁾。この目標未達の実態は逐次公表されてきているので、英語による発信力の弱い中学生の実態が数値上明らかとなった今回の学力調査結果は、多くの英語教育関係者にとって、決して予想外のものではなかったと思われる。

日本財団が 2019 年春に全国 17～19 歳の男女 1 千人に行った学校の英語教育に関する調査¹⁰⁾でも、学校での英語教育が役にたったと答えた 47.2% のうち、最多の理由は「英語が読めるようになった」の 64%、「英語が話せるようになった」のは 35.4% だった。役にたたなかったと答えた理由では、「いまだに英語が話せない」58.1%、「いまだに外国人と意思疎通ができない」33.1% と続く。英語によるコミュニケーション能力の向上に取り組んできた

国の政策にもかかわらず、教育効果の実感はやはり乏しいようである。

Ⅲ. 言語学習の基盤としての文法

1. 文法習得の意義

赤ちゃんの母語習得過程を研究している針木によれば、赤ちゃんが最初の単語を話すまでに1年を要し、単語がつながった文を話すまでにさらに1年をかけ、語彙を増やしてさまざまな構造の文を話し、やがて、文と文とを組み合わせた複雑な文を作るようになるのに、小学校入学までの時間が必要である（針木 2019）。文を作るためには、トピックになる単語（名詞）と、それに対する動作や状況を表す単語（動詞など）を、別の種類のものとしてまず認識し、それら種類の異なる単語をどうつなげると文になるのかを習得する作業を、途方もない時間と努力を費やして学んでいくのだという。この作業こそ、「文法」習得の過程そのものである。

19世紀の西洋近代語教育においては、ギリシャ・ラテンの古典語教授法から生まれた文法訳読方式によって文法が教えられてきた。人工的に作られた単発の例文を逐語訳することで、文法学習させる教授法である。これらの古典語は、ヨーロッパの諸言語に特に語彙面で与えた影響は多大であったとはいえ、日常生活ではすでに使用されなくなっていたので、「作りものの文で人工的に文法規則を例示してそれを演繹的に教える」¹¹⁾方法が採られたのではないだろうか。

ヨーロッパにおける言語学習に関して、このいわゆる文法訳読法が、「話しことば、意味のつながった文章、教わっている言語そのものを媒介とした学びを重視する形」¹²⁾へと改革を求められたのは、イギリスの応用言語学者 Cook によれば19世紀末のことであった。しかし言語学習の題材が、古典語ではなく、現代語の話しことばとなっても、単語をつなげて句・節・文を作る際の配列や関係を網羅した体系を学ばなければ、意味ある内容を理解し、また伝達手段として使用することも不可能である。したがって、学習言語を実際に使用しながらの実用性重視の学びであっても、文法を学ばない言語教育などありえない。英語話者が他言語を学ぶ場合、現代においても「反復・訳・既得言語による解説といった手法」¹³⁾がとられている、と Cook が述べるとおりである。

他方、日本の英語教育で用いられてきた文法訳読法は、自然な英語で書かれた文章を、文法事項を確認しながら読み進める英文読解法である。この方法は、先述のように日本の英語教育低迷の元凶として批判の対象とされてきた。

1) 英語の文法事項が日本語によって説明され、その習得の確認作業が、「書きことば」での反復練習と筆記試験に偏る傾向があったこと、2) 英語で書かれた文章を日本語訳する作業に重点がおかれすぎたこと、などが批判の原因と思われる。しかし鳥飼は、英語を「聞く」「話す」機会などめったになかった江戸時代のオランダ通詞が、オランダ語での業務の傍ら、英語の本を「読む」（音読）「書く」（訳読）学習によって基礎力をつけた事例を挙げ¹⁴⁾、特に日本語と英語のように言語体系のまったく異なることばを習得するためには、読み書きが不可欠な要素であると主張する。

2. 文法学習の新しい方法を求めて

文法がどの学習者にとっても、難解で退屈であることの証左として、grammar という単語から、以下のような興味深い転訛が派生している事例が挙げられる。grammar（文法）と glamour/glamor（魅惑）は、実は語源を同じくする単語なのである¹⁵⁾。スコットランド起源の方言であった glamour/glamor が、初めて「魔力」の意味で用いられたのは、スコットランドの詩人・小説家 Sir Walter Scott（1771-1832）による1805年作の詩 *The Lay of the Last Minstrel* においてであったが、やがて、「(女性の) 性的魅力」の意をもつことばに転訛した¹⁶⁾。文法に取り組むときも、美しい女性に接するときも、同じく「くらくら」という共通体験が、おそらく grammar から glamour/glamor への転訛の原因と思われる。

母語に関しては、文法を含めさまざまな知識を身につける過程（特に幼児期）には苦難が伴ったはずなのに、その辛い記憶は残らず、習得後も、ほぼ無意識に使いこなすのではないだろうか。「私がします。」と「私はします。」

の違いを、第二言語として日本語を学ぶ学習者に、論理的かつ平易に説明することができる日本語母語話者は少ないのに、自分では「なんとなく」、しかし的確に使い分けられる、といった例がこの典型であろう。

他方外国語については、音韻・語彙・統語のすべてを意識的に学習する点が、母語の習得過程と大きく異なる。母語話者の口元を見て発話を聞きながら音を練習し、単語は辞書を引き、文法は文法書の助けを借りる、といった膨大な時間と緻密な努力を重ね、時に「くらくら」しつつ外国語学習を行う。そしてこのような意識的・分析的作業には、必然的に母語との比較が伴う。つまり、外国語学習は、母語に対する「気づき」を生む点において、母語の意識的学習にもつながる。また逆説的に、母語の知識を意識化することは、外国語学習の有用な方法なのである。

欧州評議会（Council of Europe）言語政策部門が、ヨーロッパの言語教育・学習の場で共有する枠組みとして2001年に発表したヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）では、言語活動に以下の7技能が必要とされている¹⁷⁾。

- 1) 受容的言語活動（reception）①聞く②読む
- 2) 産出的言語活動（production）①話す②書く
- 3) ことばのやりとり（interaction）①話しことば②書きことば【SNS使用など含むコミュニケーション】
- 4) 仲介活動（mediation）【翻訳・通訳など】

日本の英語習得で必要とされる「聞く・話す・読む・書く」4技能と、CEFRが求める7技能との大きな違いは「仲介活動」にある。CEFRでは、「なんらかの理由で直接の対話能力を持たない者どうし間のコミュニケーションを可能とする」¹⁸⁾点で、異なる言語の「仲介活動」を重要な言語機能と捉えている。したがって言語学習時においても、異言語横断を重視し、母語使用が容認される。つまり、複言語主義の推奨である。上述したように、日本の教育現場で、高等学校に続き、中学校でも「英語の授業は原則英語で教える」ことを求めているのとは対照的である。言語教育のなかでも、とりわけ難解な文法指導にこそ、複言語（日本語と英語）の違いを意識化させる教授法を積極的に採りいれたい。

2-1. 学習文法事項を絞る

2019年度は、京都光華女子大学の「リベラルアーツ教育科目」の必修である1年次対象「総合英語Ⅰ・Ⅱ」（前年度までの「基礎・教養科目」の「英語S1・S2」）が大変革された初年度となった。学部を問わず全1年生が共通教科書 *English First Basic* もしくは *English Switch* のいずれかを使用、全部で19の開講クラスが同じ進度で学び、

表2. 2冊の英語教科書の学習文法事項

Unit	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
<i>English First Basic</i>	動詞の現在形	代名詞	時を表す前置詞	基本5文型	動詞の過去形	進行形	未来形	助動詞	is不定詞・動名詞	現在完了	接続詞	比較	受動態	分詞 (現在分詞・過去分詞)	関係詞 (関係代名詞・関係副詞)
<i>English Switch</i>	現在時制	可算名詞・不可算名詞	前置詞	過去時制	進行形	代名詞	現在完了	接続詞	will be going to	比較	受動態	動名詞・不定詞	助動詞	分詞	関係詞節

同一試験を受け、同一基準で評価される方式を初めて採用したからである。どちらの教科書も、単元ごとに学習文法事項を焦点化し、読解・文法確認・リスニング・英作文で構成した総合教材である。参考までに、この2冊の学習文法事項のリストを記してみる。

網かけ部分は動詞関連の文法事項であり、2冊の教科書のそれぞれ67%、60%が動詞に準ずる項目で占められていることが分かる。実はここで挙げた2冊の教科書以外でも、日本の英語教育現場で使用される文法書や教科書が扱う文法事項は、ほぼ同じである。学生の多くは、完了や関係代名詞など、苦手な文法事項を個別に挙げるが、どれも中学校、高等学校、大学と、繰り返し学んできて、なおわからないと自覚している事例が多い。同類の教科書を用いて文法を教えることに限界を感じた所以である。

そこで今年度、教員養成課程で小学校教諭1種免許取得をめざす、本学こども教育学科2年次対象の基礎・教養科目「英語 S3a」を開講するに際して、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく」¹⁹⁾ 教えようと、学習文法事項を精選することにした。そのため、まず小学校で教える英語にどの程度の文法知識が必要であるかを調べてみた。

2-2. 小学校3～6年生に求められる英語

文部科学省は、2020年度に小学校英語が始まるまでの移行期用として4冊の教科書を2017年度末に完成させた。その新教材 *Let's Try! 1* (第3学年用)、*Let's Try! 2* (第4学年用)、*We Can! 1* (第5学年用)、*We Can! 2* (第6学年用) で扱われている英語の文を、以下に網羅する(ただし同文型で異語彙使用の文例は省略)。因みに新学習指導要領が小学校英語に求める語彙数は、600～700語²⁰⁾ となっている。

表3. 文部科学省作成移行期用小学校英語教科書

<i>Let's Try! 1</i>	<i>Let's Try! 2</i>	<i>We Can! 1</i>	<i>We Can! 2</i>
<ul style="list-style-type: none"> ・ Hello, how are you? ・ I'm good. ・ I don't know. ・ Come here. ・ How many apples? ・ I like blue. ・ What do you like? ・ What's this? ・ Who are you? ・ I see something white. ・ Are you a rabbit? 	<ul style="list-style-type: none"> ・ How's the weather? ・ What day is it? ・ What time is it? ・ Do you have a pen? ・ What do you want? ・ This is my favorite place. ・ I wash my face. ・ I'm sleepy. ・ I take out the garbage. ・ I go to school. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ When is your birthday? ・ What color do you like? ・ Can you teach me Japanese? ・ Yes, I do. ・ I can run fast. ・ She can't cook. ・ I want to go to Italy. ・ Where is the treasure? ・ What would you like? ・ Let's play soccer together. ・ Who is your hero? ・ She is good at playing the piano, too. ・ I want to speak English more. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Where is he? ・ He is in the hat. ・ How much is it? ・ May I have ten? ・ We don't have a park. ・ My family went to the sea. ・ I saw some seashells. ・ What do you want to watch? ・ He is near the pool. ・ What do you want to be? ・ I like running. ・ I want to enjoy sports day.

上記表をまとめると、小学校英語で扱う文法は以下のようにまとめられる。

- 1) 単文
- 2) 文型
 - ① S+V
 - ② S+V+O
 - ③ S+V+C
 - ④ S+V+O+O
- 3) 人称 1人称・2人称・3人称(単数のみ)
- 4) be動詞現在形(1人称・2人称・3人称単数のみ)・一般動詞現在形(1人称と2人称のみ)

- 5) 文の形 平叙文 / 肯定文と否定文
- 6) 文の形 疑問文① Yes/No 疑問文
② 疑問詞を使った疑問文 (5W1H の疑問詞のうち、Who, Where, What, How, When)
- 7) 文の形 命令文 Let's ~
- 8) 助動詞 can・would・may
- 9) 目的語としての to 不定詞
- 10) 目的語としての動名詞

なお、2019年4月に文部科学省は、2020年度4月から使用される7社の外国語（英語）用小学校検定教科書を公表したが、いずれの教科書で扱う語彙・文法とも、文部科学省作成の移行期用教材に準じた内容・レベルとなっているものと思われる。

2-3. 「むずかしいことをやさしく」の実践に向けて

小学校英語の担い手に求められるのは、難解な語彙や高度な統語知識ではない。むしろ表音言語である英語世界の入り口に立つ小学生を、英語の音の楽しさに案内できるように、まずは自ら、正確な発音・アクセント・リズムといった音韻面を強化することを大切にして欲しい。とはいえ、日本語と言語体系が全く異なる英語の場合、1) 文構造と文の基本的構成要素を正確に理解し身につけておくことが必須である。しかも、2) 「むずかしいことをやさしく」学びつつ、この文法の基盤を築くことを目標としたい。

以上2つの観点から、基礎・教養科目「英語 S3a」を担当するにあたって、1) 学習文法事項を必要最低限に絞る、2) 絵本の英語原書と日本語訳書を併用する、こととした。言語材料が、内容のある文中で用いられることで、意味ある情報として受講生の記憶に定着しやすく、また2言語の比較は、ことばへの気づきをもたらし、結果的に英語の文法構造の理解を深めるはずである。

【指導内容】

英語の文が意味をもつものとして成りたつために必要な要素は、主語・動詞・目的語・補語であり、「助詞」のない英語では、各要素の語順が守られる。また、この4つの要素の組み合わせは、ほぼ5つの型に分けられるが、動詞がその型を決定する重要な役割を担う。英文法理解の鍵は動詞に在る、と言われる所以である。そこでまず、動詞の「働きと種類」の理解を核として、以下の文法事項学習を決めた。

- 1) 6つの品詞（名詞・動詞・形容詞・副詞・前置詞・接続詞）
- 2) 5文型の構成要素（主語・述語動詞・補語・目的語）と品詞（名詞・動詞・形容詞）との関係
- 3) 自動詞・他動詞
- 4) ①自動詞と他動詞の違い、②SV/SVC構文とSVO構文の違い、①と②の関係

ただし、ヒトは乳児期から幼児期にかけて母語の文法規則に従った文を作り出す能力を身につける（中森 2013）ので、初期言語学習者である英語母語話者のこども向けに作られた絵本²⁴⁾ 利用に限定はしたものの、統語・語彙が文部科学省作成教材と同一である作品を見つけることなど、むろん不可能である。そこで、これらの絵本理解に最低限必要な文法事項として、以下も扱うこととした。

- 5) 関係代名詞
- 6) 動詞が形容詞として機能する方法（現在分詞・過去分詞）
- 7) 動詞が名詞として機能する方法（動名詞・to不定詞）
- 8) 完了時制
- 9) SVOC構文中の目的格補語（to不定詞・分詞）
- 10) 仮定法

【指導方法】

学習する文法が作品中に用いられている観点から精選した絵本を、1) 日本語と比較しながら該当文法事項を学び、

2) それを意味のある文脈で語られる絵本を読むことで確認し、3) 2言語の違いを意識化しつつ、英語の文法定着を図ることをめざした。

2-4. 文法指導と絵本利用

第1回授業

- ・オリエンテーションで複言語主義による言語教育の重要性を学ぶ。

第2回授業

- ・6つの品詞（名詞・動詞・形容詞・副詞・前置詞・接続詞）について、各5例挙げてみる。

文法書では、冠詞の別立てなどさらなる細分化や、間投詞も含めるなど、6つ以上の品詞を挙げる場合が多いが、文を作る要素との関係を考慮し、6つだけを徹底的に理解させる。また、品詞を確認するために、辞書の引き方も学ぶ。受講生全員が電子辞書使用であるが、熟語の引き方、用例の調べ方などを知らないだけでなく、品詞の情報がどこに記載されているかといった基本的辞書の構成も学んできていないので、辞書を引く練習を重ねる。

第3回授業

- ・5文型の構成要素（主語・述語動詞・補語・目的語）と品詞（名詞・動詞・形容詞）との関係を学ぶ。

各単語について、文中の「働き」と、どの品詞がその役割を担うのかを学ぶために、まず文中の「働き」と、形態的・機能的分類である「品詞」の違いを理解させる。また、「品詞」情報はすべて辞書に掲載されているが、文中で担う「働き」は、自分で都度分析しなければならないことを認識させる。

第4回授業

- ・自動詞・他動詞の違いと、多くの動詞が自動詞としても他動詞としても機能することを認識させる。

中学校で既習の run や stand を例として、文を分析し、自動詞・他動詞の区別を習得する。

例文① My father can run fast. と② My father runs a restaurant.

例文① A statue of Saigo Takamori stands in the park. と② I can't stand the noise anymore.

第5回授業

- ・①自動詞と他動詞の違い、②SV/SVC構文とSVO構文の違い、①と②の関係

目的語の有無が他動詞と自動詞を分けること、それがSVO構文とSV/SVC構文の違いを生むことを学ぶ。

応用編では、修飾語に惑わされずに文の分析をする練習を重ねる。

例文① Here I am. と② I am here. ③ I am.

この例文の文構造を分析後、出欠確認時の「はい。」が英語では“Yes.”ではなく、“Here.”もしくは“Present.”となる理由も考える。

第6回授業

- ・前回授業の復習として、Air Supplyによる1981年作の曲“The One That You Love”を聞いて、Here I am.の文構造を理解した上で、定着させる。

- ・関係代名詞

絵本 *This Is the House That Jack Built* と『これはのみのびこ』の比較によって、英語と日本語に関して、①名詞を修飾する節の位置が名詞の前（日本語）後（英語）と異なる点、②関係代名詞の有（英語）無（日本語）、に気づいてもらう。

① どちらの作品も「積み重ね唄」と呼ばれ、先行する詩行を次々ととり入れ、あとになるほど詩節が長くなる仕組みであるが、修飾される名詞が先にくるのか、後にくるのかが大きく異なる点に注目させる。

② 英語では、名詞を説明する節と、説明される名詞を結びつけるために「関係代名詞」が必要となる。関係代名詞を使うと、必ず、後に続く節の中に名詞が1つ欠ける。この欠損の場所を理解するためには、文構造の知識が不可欠であり、その文構造の分析には、動詞の使い方を習得していることが必須となる。

第7回授業

- ・関係代名詞

前回授業で学習した関係代名詞の理解を、用意したプリントで確認する。絵本 *This Is the House That Jack Built* を読み、次々に積み重ねられる修飾節を、関係代名詞で導きつつ自分でつなぐ作業をする。全部で 11 の名詞（家→大麦→ネズミ→ネコ→イヌ→ウシ→女性→男性→牧師→オンドリ→農夫）を積み重ねて修飾していくので、最後の農夫では、12 の関係代名詞 *that* を使った節が次々と名詞 *farmer* の後ろから形容する形となる。

第 8 回授業

- ・動詞が形容詞として機能する方法（現在分詞・過去分詞）

名詞を修飾する品詞は形容詞であることをまず確認後、「踊っている女の子」のように、動詞を修飾語として用いる場合の規則を学習する。修飾される名詞とその動詞との関係性が、① 能動なのか、② 受動なのか、によって① 現在分詞② 過去分詞、と使い分けること、また、「舞台上で踊っている女の子」のように、2 語以上の修飾語句が使われる場合は、日本語と異なり、名詞の後ろから修飾されることに注意を向けた。

第 9 回授業

- ・前回授業で学習した動詞の形容詞的用法を、用意したプリントで確認する。

現在分詞の形容詞的用法の例として、絵本 *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?* と *Five Little Monkeys Jumping on the Bed*、過去分詞の形容詞的用法の例として、絵本 *It Looked Like Spilt Milk* と *Green* の各 2 冊を読む。*It Looked Like Spilt Milk* では、「覆水盆に返らず」という諺の英語版も覚えることができたし、*Green* では、「ペンキのはげた緑色の塀」を描いた頁の理解が難しいかもしれないとの事前予想に反し、受講生が「英語 S3b」で学習中の児童文学作品に多用されている *faded dress* をすぐに想起した点に成果を感じた。

第 10 回授業

- ・英語の 12 の時制

動詞の基本時間軸（過去、現在、未来）にそれぞれ進行形があり、完了時制にも過去、現在、未来の時間軸と、それぞれの進行形があることを理解する。次に *Have You Seen My Duckling?* と *Have You Seen My Cat?* をそれぞれの日本語訳書と読み比べて完了時制が内包する意味を学び、英語では時制にこだわることを意識化させる。また、この 2 冊の絵本の邦題が否定疑問形となっていることから、*Library Lion* とその日本語訳書の比較も併せて使用し、普通疑問文（英語原書）と否定疑問文（日本語訳書）の違いを基に、文化的考察へと拡大。

第 11 回授業

- ・動詞が名詞として機能する方法（動名詞・to 不定詞）

目的語に動名詞か to 不定詞のいずれをとるか、という観点から他動詞を類型化（① 動名詞 = to 不定詞② 動名詞限定③ to 不定詞限定④ 動名詞 ≠ to 不定詞）する。*I'll Always Love You* を読み（英語原書と日本語訳書の併読）、事例を学ぶ。

第 12 回授業

- ・SVOC 構文中の目的格補語（to 不定詞・分詞）

SVC 構文の C が主格補語であるのに対し、SVOC 構文における C が目的格補語であること、また、この補語として機能する名詞、形容詞、分詞、不定詞、句、節の各例を学ぶ。

- ・5 文型理解を絵本 *It's My Birthday* 全編の文分析で確認。さらにこの絵本の日本語訳書との比較から、英語と日本語のさまざまな違いを確認。

第 13 回授業

・*It's My Birthday* の文分析を授業で再確認する。分析には 4 色を使い分けて各文の構成要素を可視化すること、各文について、1) 主語と動詞をまず見分けること、2) 動詞が自動詞か他動詞かを辞書で確認すること、3) 他動詞であれば目的語をみつけること、この 3 ステップを習慣化するよう促す。

第 14 回授業

- ・仮定法

If文が仮定法、と受講生全員が思いこんでいたが、仮定法の決定打は動詞であることを学ぶ。仮定は①過去に対するもの②現在に対するもの③未来に対して1)可能性のある仮定2)可能性の少ない仮定3)可能性のない仮定、以上5つのパターンに分けられることを学ぶ。また、Shakespeare 作 *Romeo and Juliet* のバルコニーでの会話を参考に、仮定法の prototype を覚える。

Jo-Jo the Melon Donkey と日本語訳書を併読し、仮定法がどの場面でどのように使われているかを学ぶ。

第15回授業

・仮定法

Mama, If You Had a Wish と日本語訳書を併読し、仮定法の使い方を復習する。

IV. 基礎・教養科目「英語 S3a」授業内容・方法に関する reflection paper 考察

半期15回実施した「英語 S3a」の授業では、学習文法事項が作品中に含まれている観点から精選した絵本を使用し、1) 日本語と比較しながら該当文法事項を学び、2) それを、意味のある文脈で語られる絵本を読むことで確認し、3) 2言語の違いを意識化しつつ、英語の文法定着をめざした。

毎回授業終了時には、受講生に授業の感想を自由記述してもらった。その記述内容で使用された文言を、授業の「ワクワク度」に関して、ワクワク度1：学習内容を理解できた／気づきがあった、ワクワク度2：学習内容をおもしろい／楽しいと感じた、ワクワク度3：授業での学びを受けて、次にしたいことを自ら提案している／希望を述べている、の3段階に分けてみた。それらをまとめた結果が以下である。

表4. 各授業回のワクワク度1～3のコメント数から推測されること

- ・授業4回目、12～15回目でワクワク度3に関するコメント数が多い。
 - 4回目では、受講生が初めて「自動詞と他動詞」の区別を認識できたこと、また、12回以降は、日本語訳書も全編読むことにした点と関係があるかもしれない。
- ・ワクワク度1のコメント数は1回目を除くと各授業回ではほぼ一定している。
 - オリエンテーションの初回授業を除いて、毎時文法学習に関して学びや気づきがあったようである。
- ・ワクワク度2と3は、授業回によってのコメント数のばらつきが大きい。
 - 学習文法事項の理解度や、扱う絵本の好みの違いが関係しているのかもしれない。
- ・特に15回目でワクワク度2と3のコメント数が多い。
 - 最後の授業であったので、受講生から担当教員に対するコメントが多く寄せられた。学習理解や、学習への意欲に対して、教員が一定の影響を持つのかもしれない。

表5. 個別学生のワクワク度1～3のコメント数から推測されること

- ・学生2・4を除くと、ワクワク度1のコメント数が、ワクワク度2、3のコメント数より多い。
 - 学生2・4については、学習文法事項に関して、既知の内容であった／授業を受けてなお理解ができない部分がある、いずれかの可能性がある。
- ・出席率と出席した授業当たりのコメント数の相関係数は0.75と相関が高い。
 - 授業に出席すると、ワクワク度も上がり、コメント数も上がるので、この授業への出席には意義を見出していると思われる。
- ・他方、成績と授業当たりのコメント数には相関がみられなかった。
 - この授業参加の前後で成績を比較する試験を課していないため、成績の向上への影響に関する分析はできない。

表4. 各授業回のワクワク度コメント数 (n=7)

	ワクワク度1	ワクワク度2	ワクワク度3	計	1人当たり
1回目	1	1	0	2	0.33
2回目	5	0	0	5	0.71
3回目	4	2	0	6	0.86
4回目	6	3	5	14	2.00
5回目	6	1	4	11	1.57
6回目	4	1	3	8	1.14
7回目	7	0	1	8	1.14
8回目	5	6	1	12	1.71
9回目	3	3	1	7	1.40
10回目	5	3	1	9	1.80
11回目	6	3	3	12	1.71
12回目	5	6	3	14	2.00
13回目	6	5	1	12	2.00
14回目	5	3	2	10	2.00
15回目	4	7	6	17	2.43
計	72	44	31	147	22.82

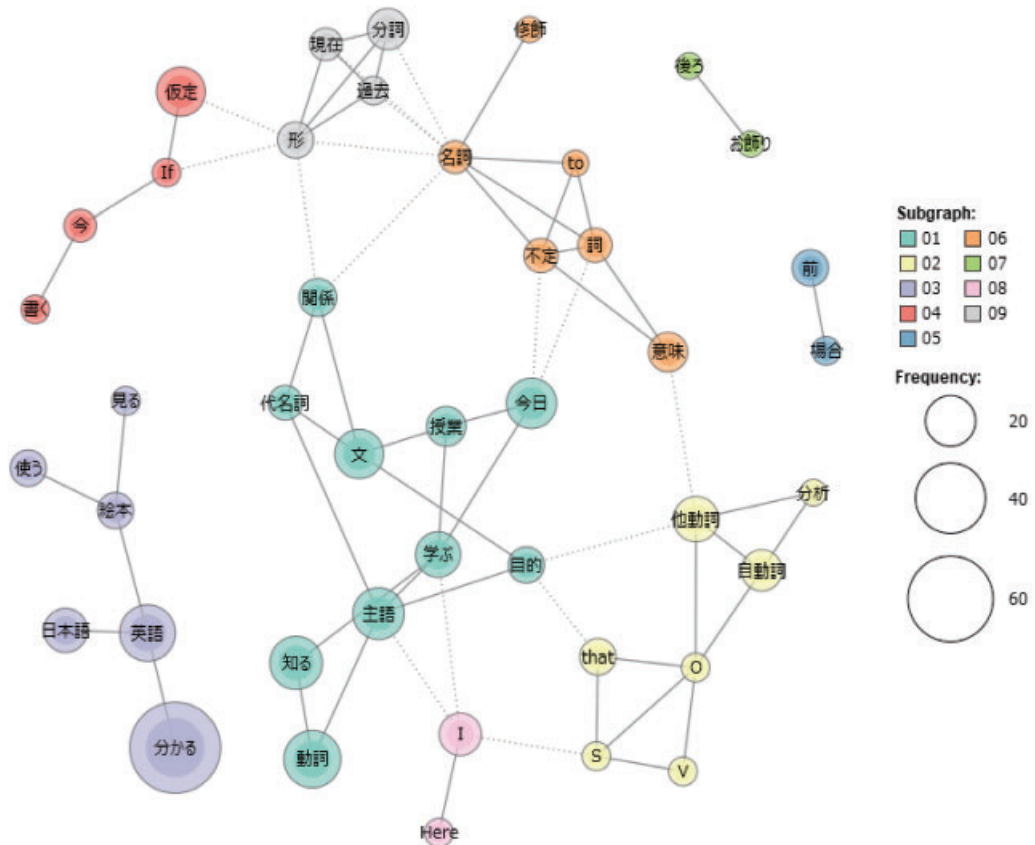
表5. 個別学生のワクワク度コメント数 (授業半期 15 回分)

	ワクワク度1	ワクワク度2	ワクワク度3	計
学生1	10	6	5	21
学生2	6	7	5	18
学生3	14	8	2	24
学生4	5	3	4	12
学生5	15	6	2	23
学生6	12	10	6	28
学生7	10	4	7	21
計	72	44	31	147

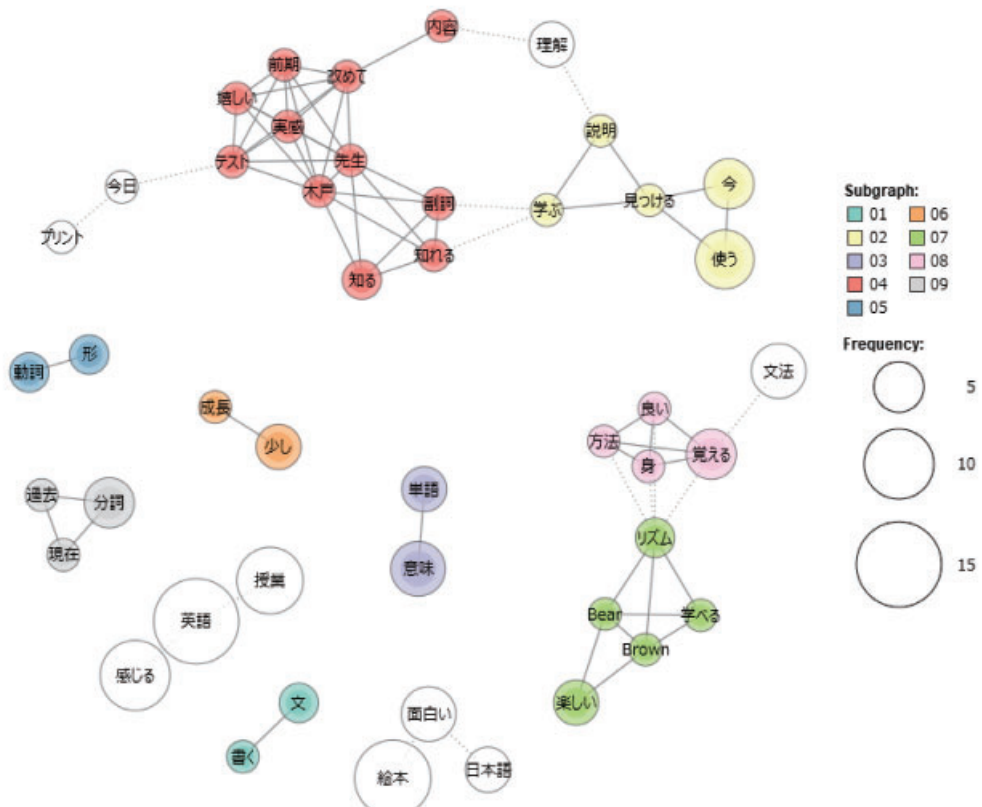
図1. ワクワク度別コメントの KH Coder によるテキスト分析の結果から推測されること

- ・ワクワク度1では、文法事項と「分かる」の出現頻度が高い。
→授業で学んだ文法事項を理解できたと感じているようである。
- ・ワクワク度1で、「分かる」と「英語」-「日本語」-「絵本」の関連性がある。
→絵本の利用は、文法理解に一定の効果がみられる。
- ・ワクワク度2・3に教員名が出現している。
→授業を楽しく感じるのに、教員の影響が大きいかもしれない。
- ・ワクワク度2に出現した「絵本」の円が大きい。
→絵本使用は、ワクワク度向上につながるようである。
- ・ワクワク度2で、「知る」-「楽しい」、「覚える」-「良い」、「学べる」-「楽しい」に関連がみられる。
→知的好奇心が、意欲的学びにつながることを示唆しているように思われる。
- ・ワクワク度3に出現した「単語」-「覚える」、「復習」-「思う」が多い。
→この授業が学習意欲の向上につながったようである。
- ・ワクワク度3で、「バイト」-「教える」が出現している。
→自らの学びが、塾で教える際の知識となったことを示しているのではないかと思われる。

ワクワク度1



ワクワク度2



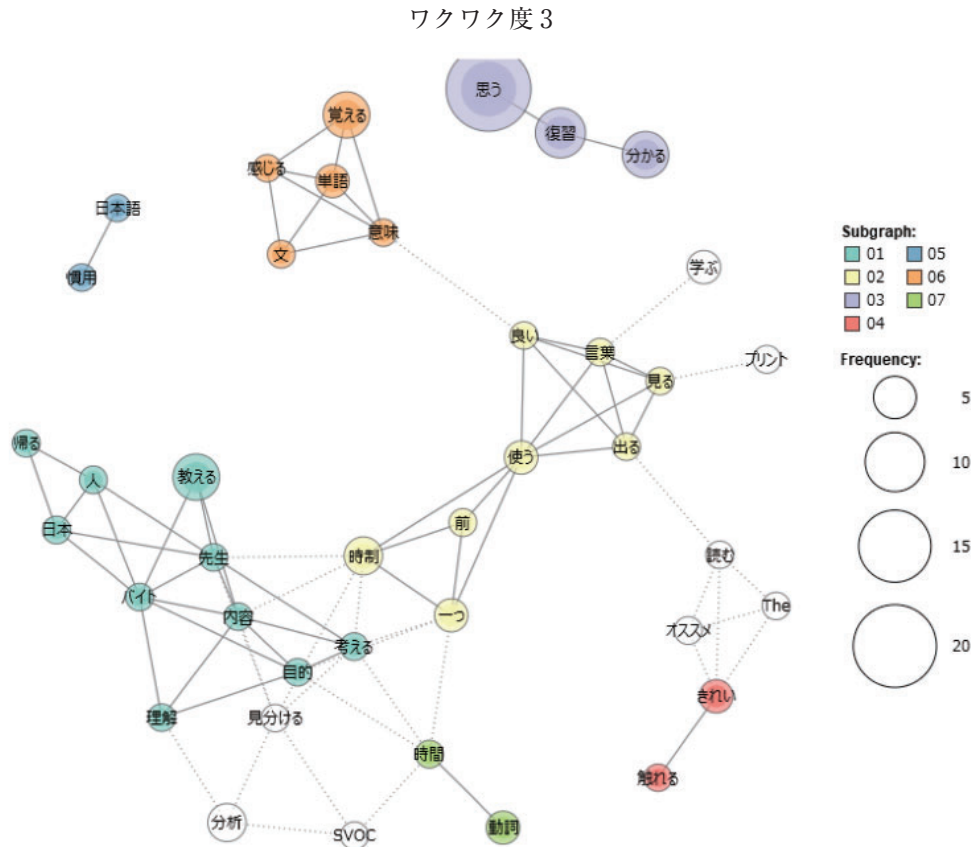


図 1. ワクワク度別コメントの KH Coder によるテキスト分析の結果

V. おわりに

現在こども教育学科で学ぶ「学校教育コース」の学生は、小学校の教壇に立てば必ず英語を担当することになる。その時に備え、学生の統語知識を高めることを目的として、複言語主義に基づく絵本を活用した英文法指導を試みた。

この方法に関して、全 15 回の授業のうち、前半より後半のワクワク度が上昇しており、ワクワク度と出席率の相関もあることから、この方法が一定の効果を示したと考えられる。ただし、この授業の受講生数は 7 名と少人数で、受講前後の成績向上の効果は調べていないため、文法習得に結びついたのかについては明らかにすることができない。

Cook はことばを学ぶ方法のうち、文法訳読法とコミュニケーション重視の手法の違いを、「前者はことばについて知ること、後者はそれを使うことを促すもの」²²⁾とする旧来の考え方を紹介しつつ、2つの手法は対立するのではなく、両者の統合こそが、言語教育・学習の効果的手段であると主張する。外国語学習において、学習者と教育者の母語が共通である場合、双方にストレスのない母語を適度に仲介するのは効果的である。したがって、扱う言語材料や指導方法に工夫を凝らすことで言語習得につなぐ例をさらに模索しつつ、遠からず小学校教諭となる学生自身の言語習得補助と指導力向上を目指したい。

付記

IV の統計処理に関しては、京都光華女子大学キャリア形成学部の酒井浩二先生にご教示いただいた。伏して感謝申し上げます。

注

- 1) 日本経済新聞（朝刊）2019年4月19日12版34頁
- 2) 日本経済新聞（朝刊）2019年8月1日13版39頁・同11版関連特集33頁
以下、この学力テスト結果に関する数字は、すべて33頁・39頁に依る。
- 3) *Asahi Weekly* 2014年3月30日10頁
- 4) 大津由紀雄・江利川春雄・斎藤兆史・鳥飼玖美子（2013）英語教育、迫り来る破綻．ひつじ書房 .160-163
鳥飼玖美子（2018）子どもの英語にどう向き合うか .NHK 出版新書 .
以上の2冊を参考に作表。
- 5) 日本経済新聞（朝刊）2016年4月5日14版29頁
- 6) 日本経済新聞（朝刊）2017年4月6日13版34頁
- 7) 日本経済新聞（朝刊）2018年4月7日14版39頁
- 8) 日本経済新聞（夕刊）2019年4月16日4版12頁
- 9) 朝日新聞（朝刊）2016年2月28日14版34頁
- 10) 日本経済新聞（朝刊）2019年6月24日12版16頁
- 11) Cook, Guy. (2010). *Translation in Language Teaching*. Oxford University Press.5
- 12) *Ibid.*5
- 13) *Ibid.*3
- 14) 鳥飼玖美子（2018）子どもの英語にどう向き合うか .NHK 出版新書 .73
- 15) *The Oxford English Dictionary V.4. F-G.* (1933). Clarendon Press.198
- 16) Klein, Ernest. (1971). *Klein's Comprehensive Etymological Dictionary of the English Language*. Elsevier Publishing Company.313-312
- 17) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment.* (2001). Cambridge University Press.14
- 18) *Ibid.*14
- 19) 高橋敏夫（2010）井上ひさし 希望としての笑い .角川 SSC 新書 .9
- 20) 文部科学省（2018）. 小学校学習指導要領 平成29年3月告示 .158
- 21) 第二言語を習得するこども用に、音韻・語彙・統語を制限して段階別に作成された「教育用絵本」（Oxford University Press 出版の Oxford Reading Tree シリーズなど）は対象としていない。
- 22) Cook, *Ibid.*142

引用文献

- 針木悦子（2019）赤ちゃんはことばをどう学ぶのか . 中公新書ラクレ .131-171
- Hickling, Robert (2018) *English First Basic*. 金星堂 .
- Hickling, Robert (2018) *English Switch*. 金星堂 .
- 文部科学省（2018）*Let's Try 1*.
- 文部科学省（2018）*Let's Try 2*.
- 文部科学省（2018）*We Can! 1*.
- 文部科学省（2018）*We Can! 2*.
- 中森誉之（2013）外国語はどこに記憶されるのか—学びのための言語学応用論—. 開拓社 .149-151

使用絵本

第6・7回授業

Adams, Pam (1977) *This Is the House That Jack Built*. Child's Play Ltd.

谷川俊太郎 (2011) *これはのみのびこ*. サンリード.

第9回授業

Christelow, Eileen. (1989) *Five Little Monkeys Jumping on the Bed*. Clarion Books.

Martin, Bill Jr. Carle, Eric. (2007) *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?* Henry Holt and Company.

Seeger, Laura Vaccaro. (2012) *Green*. Roaring Brook Press.

Shaw, Charles G. (1947) *It Looked Like Spilt Milk*. Harper Collins Publishers.

第10回授業

Carle, Eric. (1987) *Have You Seen My Cat?* Simon & Schuster Books.

エリック・カール文・絵 おおつきみずえ訳 (1991) *ぼくのねこみなかった?* 偕成社.

Knudsen, Michelle. Hawkes, Kevin. (2006) *Library Lion*. Candlewick Press.

ミシェル・ヌードセン文 ケビン・ホークス絵 福本友美子訳 (2007) *としょかんライオン*. 岩崎書店.

Tafari, Nancy. (1984) *Have You Seen My Duckling?* Greenwillow Books.

ナンシー・タフリ文・絵 はるみこうへい訳 (2000) *うちのコみませんでしたか?* 童話館出版.

第11回授業

Wilhelm, Hans. (1985) *I'll Always Love You*. Dragonfly Books.

ハンス・ウィルヘルム文・絵 久山太市訳 (1988) *ずーっとずっとだいすきだよ*. 評論社.

第12・13回授業

Oxenbury, Helen. (1993) *It's My Birthday*. Candlewick Press.

ヘレン・オクセンバリー文・絵 せなあいこ訳 (1995) *ケーキがやけたら、ね*. 児童図書館・絵本の部屋.

第14回授業

Morpurgo, Michael. Stephens, Helen. (2013) *Jo-Jo the Melon Monkey*. Egmont.

マイケル・モーパーゴ文 ヘレン・ステイーヴンズ絵 おびかゆうこ訳 (2015) *ロバのジョジョとおひめさま*. 徳間書店
の児童館.

第15回授業

Modesitt, Jeanne. Spowart, Robin. (1993) *Mama, If You Had a Wish*. Green Tiger Press.

ジーン・モデシット文 ロビン・スポワート絵 もきかずこ訳 (1994) *いいこってどんなこ?* 富山房.

参考資料

Air Supply. (1981) *Forever Love* "The One That You Love." BMG ARISTA.